

第2章

正確かつ効率的に行うために 期末実地棚卸の 実施における留意点

EY新日本有限責任監査法人
公認会計士

針谷 隆

はじめに

● 期末実地棚卸を正確かつ効率的に実施するうえで、実施要領書や口ケーション図、棚札などの事前準備を入念に行うことが重要である。

● 棚卸のカウント方法は、在庫の性質や重要性等に応じて使い分ける必要があるが、職務分掌を明確にしたうえで、事前に定められたルールに従い進める必要がある。

● タグ方式においては、棚卸終了後の棚札の回収状況の管理を適切に行うことで、カウント漏れや不正の防止に役立つ。

部分は筆者の私見であることをあらかじめ申し添える。

実地棚卸の基本

(1) 棚卸の目的

実地棚卸を行う目的としては、会計上の観点からは、棚卸資産の決算残高を確定させることにある。具体的には、棚卸資産の現物確認を行うことにより、棚卸資産の数量を確定させるとともに、長期滞留品や不良品を確認することで棚卸資産評価損の検討対象を把握することができ

る。また、在庫管理の観点からは、実地棚卸による数量と継続記録法に基づく帳簿残高数量との差異を分析す

ることで、盗難や不正によるロスの発見や、受払記録の誤りを発見することに役立つ。さらには、実地棚卸にあたっては事前に棚卸エリアの整理整頓が必要となるため、工場内や倉庫内における不良品や不用品、長期滞留品等を明確にすることができ

(2) 棚卸方法の種類

① タグ方式とリスト方式

棚卸の方法には、大きくタグ方式とリスト方式があり、それぞれ会社の実態に合致した方法を採用することになる。

タグ方式は、棚卸原票や棚札と呼ばれる連番が付された用紙(タグ)を使用して実地棚卸を行う方式であり、カウントした在庫についてタグに情報を書き込み、これを在庫に貼り付け、回収することにより棚卸資産の実際数量の集計を行う方法である。タグ方式によると、すべての棚卸資産にタグが貼られていることが目視で確認できるため、網羅性の確認に役立つ。ただし、タグ方式では、タグの事前準備、カウント時のタグへの記入、タグの回収管理など工数がかかるといったデメリットがある。そのため、一般的には棚卸資